
アキタラクティブ アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で
深い学びのために～



秋田県総合教育センター

2019.07.24

学習指導要領の改訂を受け、秋田の優れた学校教育の実践を継承し、更なる発展を目指す。

子どもたちの資質・能力の育成のために、主体的・対話的で深い学びの視点をもって授業改善を積み重ねていくことが求められています。

秋田県の授業実践が今後も発展していくためには、次世代に継承されることに加え、教員一人一人が研究の視点をもって授業に取り組むことが必要であると考えます。

秋田県総合教育センターでは、これまでの研究から、授業をよりよくしていくためのポイントをまとめ、“Akitaractive Eye”と名付けた冊子を発行しました。

本冊子が授業づくりや校内研修で活用されることで、「このポイントを意識して取り組んでみよう」という意欲が高まり、主体的な実践につながることを期待しています。

秋田の探究型授業の継承と発展～新学習指導要領への円滑な移行に向けて～

<Akitaractive>

固定された単一的な「手法」より、授業における「理念」の理解が重要です。今まで秋田県で培ってきた秋田の探究型授業のよいところを継承し、自ら発展させていく。そのためには、型の理解と習得だけでなく、理念を理解し、型から抜け出すといったいくつかの段階が必要です。

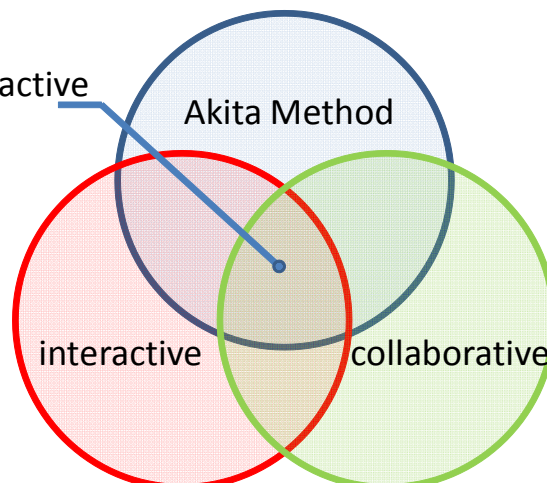
Akita Method

(Activelearningの視点からの授業づくり)

「見通しをもつ」「自分の考えをもつ」「ペア・グループ・学級で話し合う」「学習内容や学習方法を振り返る」という基本プロセスを理解します。各段階を機能させ、プロセスとして関連付けた授業づくりを目指します。

interactive (対話的)

ペアやグループでの対話、問題との対話、これまでの学びとの対話等、対話を通して自他の考えを言葉に表したり、図等で可視化したりして伝え合う場面を設定します。対話的な学習が子どもの思考を広げ、深めていきます。



collaborative (協働的)

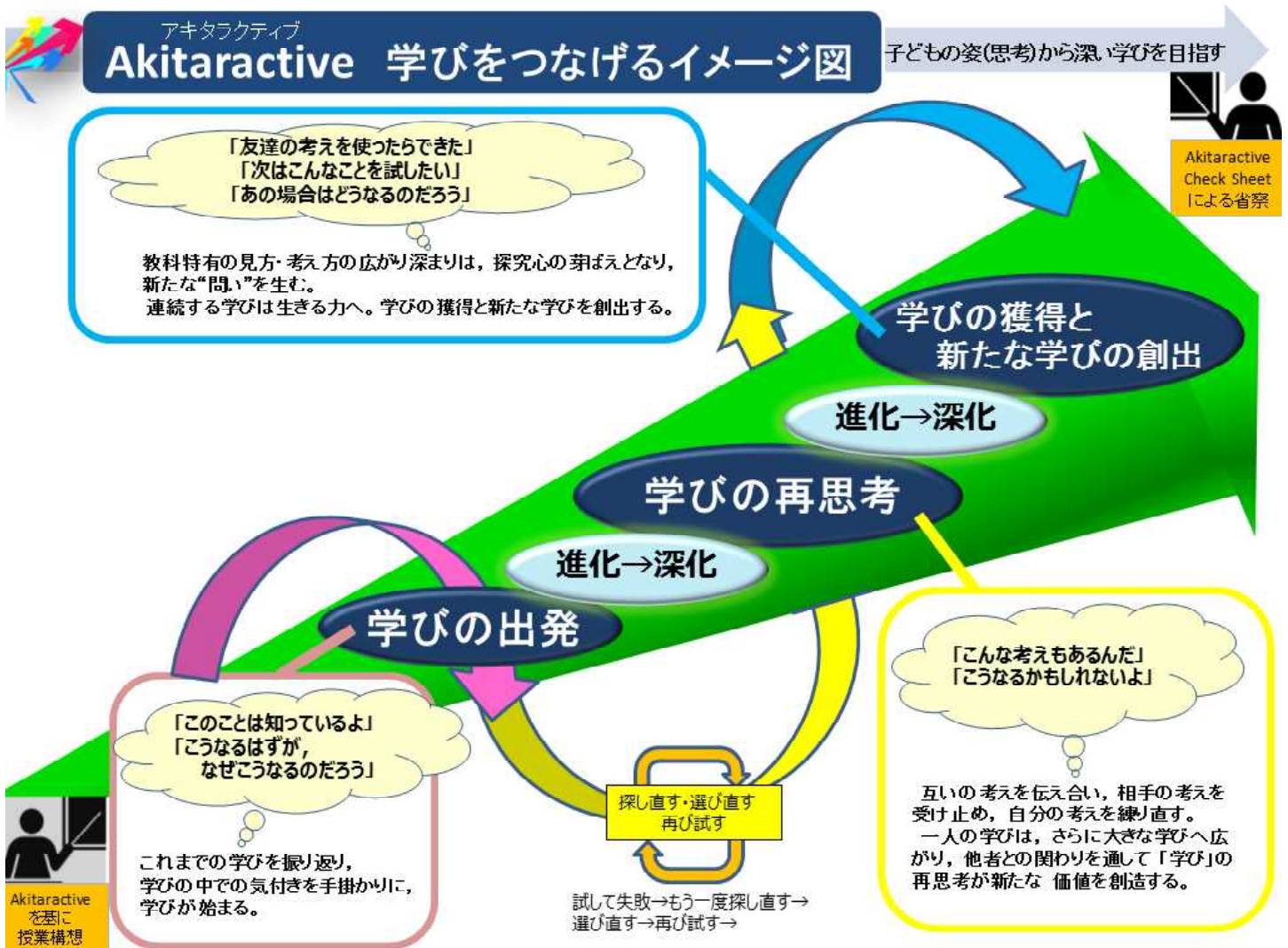
机の配置や課題設定、話し合う場の工夫、子どもの思考をつなげる教師のコーディネートなど、必要感のある協働の場を構築するための手立てを常に意識しながら授業を構想していきます。

<Akitaractiveの概念図>

<Akitaractive 学びをつなげるイメージ図>

子どもの姿（思考）から深い学びを目指して授業構想，単元構想の際に参考になるように作られたものです。

「学びの出発」「学びの再思考」「学びの獲得と新たな学びの創出」は，子どもの問いや発見等によって連続しており，授業，単元や題材，年間を通してあるいは子どもたちの人生において，身に付けた教科等特有の見方・考え方が子どもたちの中で成長していくイメージを表しています。



本冊子は、以下の三つのポイントを押さえ、優れた教育実践につなげるための資料としての活用を目指して作成しています。

- ① 育成を目指す資質・能力の明確化
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ③ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

この見開きのタイトルです。

見開きの内容を要約したものです。何にどう取り組むべきかを簡潔に示しています。

学びの出発

これまでの学びを振り返り、学びの中での気づきを
手掛かりに新たな学びが始まる。

例えばこんな授業を



こうしてみませんか?

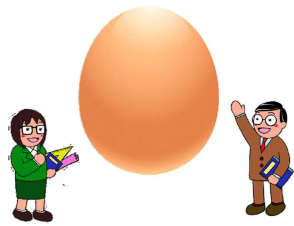


左側の漫画「例えばこんな授業を」と、右側の「こうしてみませんか?」は、いずれも授業実践例を紹介したものです。秋田県教員育成指標を意識しながら授業改善を積み重ね、右側の授業へ少しずつ挑戦していきましょう。

上司、同僚、同期から必要に応じてアドバイスをもらい、挑戦する気持ちを持ちたいものです。また、実践を記録する等して、教材等についての研究を深めていきましょう。

ここにあるポイントは、秋田県の教育実践を基に本研究を通して見いだされたものです。

授業をよりよくしていくためのポイントを、4コマ漫画に対応させて紹介しています。



Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～ vol.01



1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

◇入念な教材研究をする

目指す子どもの姿を明確にし、これまでの学びや実生活で学んだことを子どもたちから引き出して、興味・関心、好奇心や向上心をくすぐるような内容の精選をしましょう。

2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

教科等の特質を踏まえながら、子どもの反応を予想し、思考をつなげて授業の舵取りをしていきましょう。

これまでの学びとこれからの学びをつなげることで、学ぶ意義の自覚が促されます。

4 新たな学びを出発させるために

◇適宜、振り返る場面を設定する

◇課題づくりの場を設定する

これまでの学習を振り返ることから生まれる「あれっ」「そうか」という気付きや、「だったら」「もしかしたら」という問いから、本時の授業が始まります。子どもたちの課題意識を高め、引き出し、学びを出発させましょう。

“Akitaractive Eye”は授業改善の視点を提供します。

授業には「この手順で、この通りにやれば誰にでも当てはまる」といった正解は存在しません。仮に、似たような状況の子どもたちに、同じ教科の同じ単元や題材で、同じ手立てを講じたとしても結果は同じものにはならないものです。だからこそ、目の前の子どもたちの実態をよく理解して、柔軟に軌道修正をすることが必要です。

多くの先生方にとって、“Akitaractive Eye”が一つのきっかけとなり、授業改善の役に立てたら幸いです。

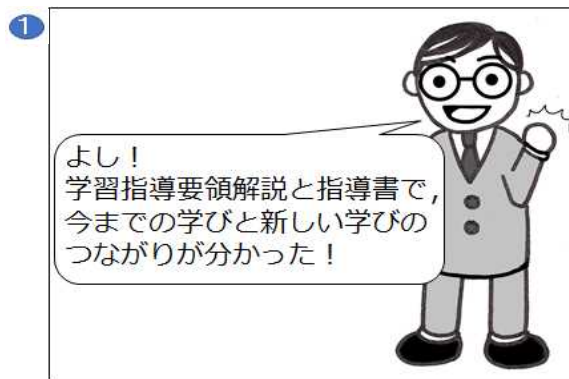
学びの出発

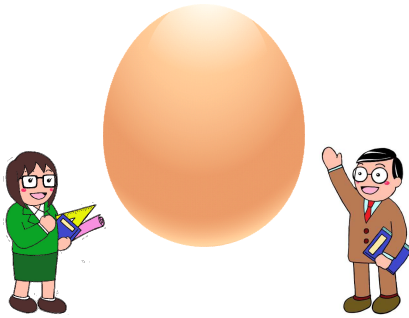
これまでの学びを振り返り，学びの中での気づきを
手掛かりに新たな学びが始まる。

例えばこんな授業を



こうしてみませんか？





1 わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

◇入念な教材研究をする

目指す子どもの姿を明確にし、これまでの学びや実生活で学んだことを子どもたちから引き出して、興味・関心、好奇心や向上心をくすぐるような内容の精選をしましょう。

2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

教科等の特質を踏まえながら、子どもの反応を予想し、思考をつなげて授業の舵取りをしていきましょう。

これまでの学びとこれからの学びをつなげることで、学ぶ意義の自覚が促されます。

4 新たな学びを出発させるために

◇適宜、振り返る場面を設定する

◇課題づくりの場を設定する

これまでの学習を振り返ることから生まれる「あれっ」「そうか」という気付きや、「だったら」「もしかしたら」という問いから、本時の授業が始まります。

子どもたちの課題意識を高め、引き出し、学びを出発させましょう。

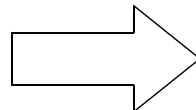
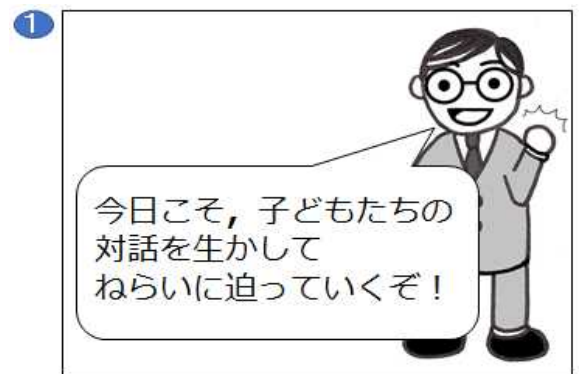
学びの再思考

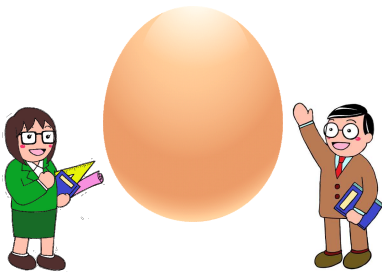
互いの考えを伝え合い、相手の考えを受け止め、
自分の考えを練り直す。

例えばこんな授業を



こうしてみませんか？





1 ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

◇効果的な学習支援を考える

ねらいに迫るための必然性のある対話場面や、場面に応じて必要な支援を具体化し、ねらいを達成できるように授業の創意工夫を心掛けましょう。

2 「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

◇多様な展開を考える

子どもが相違点や共通点に目を向けたり、互いの意見について比較や検討をしたりすることを通して、一人一人の見方・考え方が働くように授業を展開させましょう。

3 気づきを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する ◇想定外の反応にも柔軟に対応する

事前に想定した反応と異なっても、実際の授業で対話から生まれたつぶやきや発言を取り上げながら、児童生徒にとってストーリー性のある授業展開にしましょう。

4 問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

◇獲得した学びをまとめる場を設定する

じっくり思考する時間を保障し、考えた足跡を振り返ることにより、子どもが「どうして間違ったのか」「どう考えたら分かったのか」等について自分の言葉でまとめ、表現できるように促しましょう。

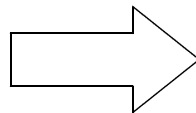
学びの獲得と
新たな学びの創出

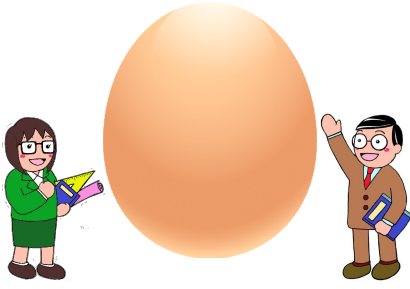
連続する学びは力へ。
新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。

例えばこんな授業を



こうしてみませんか？





1 活用・発揮を促すために

◇学んだことが活かされる場面を設定する ◇振り返りから課題を引き出す

次時だけでなく他教科等や実生活でも「見方・考え方」を更に働かせ、解決する力を高められるようにしましょう。

2 学びを見取るために

◇評価方法を検討する

◇授業プランを修正する

自校で目指す子どもの姿に照らして指導内容を見直し、めあての達成に向けて授業改善をしましょう。

3 学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

◇フィードバックして働き掛ける

「分からなかったことが分かるようになる」「問いが深化している」等の子どもの変容を的確に見取り、適切な声掛けをして自覚を促しましょう。

4 新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

◇新たな学びが連続するようにする

資質・能力の育成を目指し、本時だけでなく、単元や題材の全体を振り返って「どんどん疑問を解決したいな」「次の学習が楽しみだな」等の新たな学びにつながる子どもの姿を大切にしましょう。

子どもたちの資質・能力の育成を目指すカリキュラム・マネジメント

各学校が設定する学校教育目標を実現するためには、学習指導要領等に基づいて教育課程を編成し、それを実施・評価して、改善を行っていくことが必要です。特に学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、「教科等横断的な学習を充実すること」「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うこと」等の取組が必要です。このようにして、教育活動の質的向上を図っていくことを「カリキュラム・マネジメント」といいます。このように、カリキュラム・マネジメントを行うことで、学習効果の高まりにつながります。

実施に当たっては、教科等の目標の達成を目指しながら、学校教育目標の実現につながる授業の在り方を考えることも大切です。授業における「主体的・対話的で深い学び」は、単元や題材、更には教科間や学年間等の大きなまとまりの中で育まれます。そのため、1単位時間の授業だけでなく、単元（題材）構成や年間指導計画等にも評価・改善の視点を置き、資質・能力を育成していくことが大切です。

学校教育目標の実現に向けた役割

教育課程全体の中での位置付け

自らの授業の見つめ直し

<カリキュラム・マネジメントに取り組む際のキーワード>

学校教育目標の具現化 ～「目指す子どもの姿」の実現に向けて～

<目指す子どもの姿を中心に据えたカリキュラム・マネジメントの推進>

カリキュラム・マネジメントの三つの側面

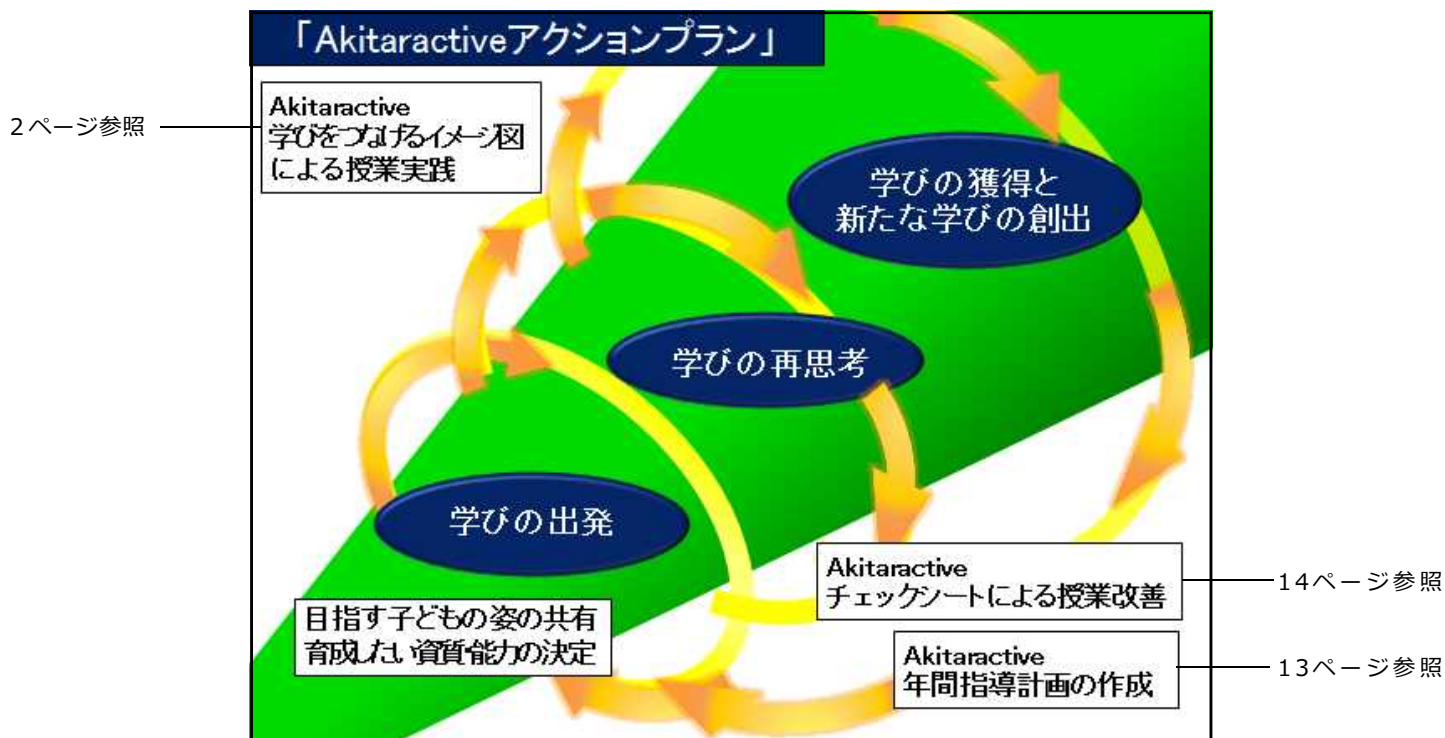
「教科等横断的な視点」 「PDCAサイクルの確立」 「人的・物的資源等の活用」

資質・能力は全教育活動を通して育成されるものであり、その実現に向けては「カリキュラム・マネジメント」の実践が必要です。

「育成したい資質・能力」を明確にして、チーム学校で取り組むことを目指した年間指導計画を基に、教科間や学年間等の大きなまとまりを通して育成することを心掛けます。

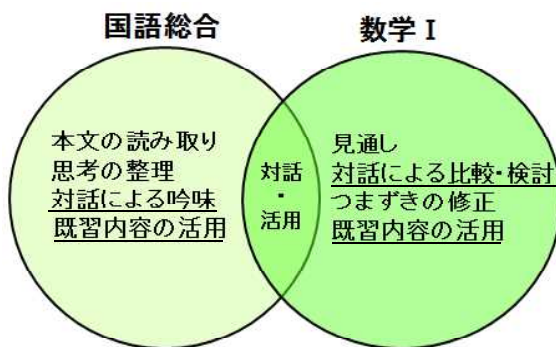
「Akitaractive アクションプラン」の提案

- ・ 学校教育目標を受け設定された「目指す子どもの姿」の共有
- ・ 目標の実現に向けた「育成したい資質・能力」の決定
- ・ 育成したい資質・能力を中心にした Akitaractive 年間指導計画の作成と活用
- ・ Akitaractive 学びをつなげるイメージ図, Akitaractive Eye を基にした授業実践
- ・ Akitaractive チェックシートによる振り返りによる改善
- ・ 「目指す子どもの姿」「育成したい資質・能力」等の見直しと改善



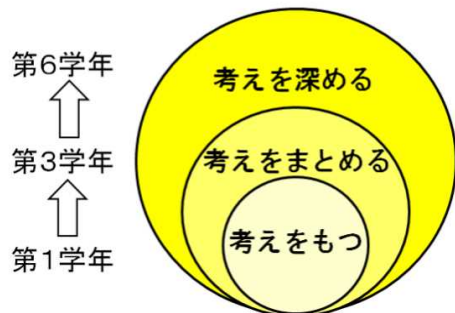
＜チーム学校で取り組む際の大きなまとまりのイメージ例＞

教科間で「課題解決力」を育成したい場合の例（高等学校）

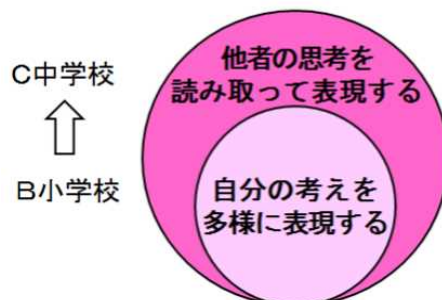


※「対話による吟味、比較・検討」、
「既習内容の活用」について、
2教科を通して取り組むことによ
って課題解決力を育成する。

学年間で「関わりの中で学ぶ力」
を育成したい場合の例（小学校）



校種間で「自分の考えをもち相手に伝える力」
を育成したい場合の例（小・中学校）



Akitaractive 年間指導計画(中学校の例)

本県・地教委等が目指す教育・重点

- <本県教育が目指すもの>
 1 思いやりの心を育てる
 2 豊かな人間性を育む学校教育
 3 基礎学力の向上を図る
 4 心と体を鍛える
 5 教師の力量を高める
- <○○町教育が目指すもの>
 1 国際化時代に即応できる能力の伸長、個性のよりの一層の尊重、基礎学力の育成、そして確かな学力の定着を図る。
 2 自ら学び自ら考える意欲を向上させる教育を目指し、創意工夫した教育課程の編成と特色ある学校づくりに努める。
 3 人間として心豊かに思いやりのある、たくましい児童・生徒の育成に努める。

学校教育目標

子ども・地域の実態(よさ、課題)

- <生徒の実態>
 ・あいさつがよい
 ・素直で勤勉
 ・心が穏やかでやさしい
 ・たくましさや元気が不足
 ・自ら課題を見付け、解決しようという意欲の不足
- <教育課題>
 ・基礎学力の定着
 ・学力の向上
 ・たくましさの育成
- <地域の実態>
 ・豊かな自然(山, 川, 海)
 ・学校教育への関心が高く協力的

学校の指導体制、家庭・地域との連携・協働

- 1 特色ある学校づくりを目標とする(例: 地域の特産物販売等)
- 2 人間関係の構築(例: 高齢者施設訪問等)
- 3 生徒の意欲を向上させる(例: 生徒会主催の入学説明会等)
- 4 豊かな体験を演出する(例: 一人暮らしの老人宅の除雪等)
- 5 教師の力量を高める(例: 学校支援講座を活用した研修等)
- 6 信頼を得るためのタイムリーな情報発信と丁寧な説明
- 7 魅力あるPTA活動(例: 親子協働活動「運動会準備」等)

子どもの発達をどのように支援するか

- 1 全体や平均ではなく、生徒一人一人の人格形成や目標達成を支援したり、見取ったりすることを大切にす。
- 2 通常学級において特別な支援が必要とする生徒に対しては、支援者との連携を十分に図った上で必要な支援をするとともに、保護者との良好な関係づくりに努める。
- 3 特別支援学級の生徒に対しては、本人や保護者に寄り添いながら通常学級の生徒との交流を十二分に行う。

目指す子どもの姿

<中学校第2学年>

国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育 保健体育	家庭 技術・家庭	英語	道徳	特別活動 総合的な学習の時間
<p>「モアイは語る」～地球の未来へ(論説文)</p> <p>論説文を読んで、他者とうまく話し合うことを目指す。 ・他者と評価し合うこと、自らを振り返り、批評文を練り上げる(相互評価、再発表)</p>	<p>中国・四国地方の過疎・過密問題の背景や解決への取組を考へる。 ・グループごとに意見をまとめ、全体発表を行う(演、表)</p>	<p>一次関数を活用する。 ・日常の事象や数理的に捉え(演、演、説明)</p>	<p>天気とその変化を予測する。 ・学習した概念を活用して天気予報を行う(演、演、演)</p>	<p>夏の思い出の音楽を聴き、歌詞と旋律の関係を語り、関係を感じ取り、弱く、強弱について話し合い、それらを基にいろいろな曲を創作する(考、演、演)</p>		<p>球技(ゴール型)ノーマットを打つには、どのコースをどのコースで打つべきかを考える。 ・コースを打つには、どのコースをどのコースで打つべきかを考える。</p>	<p>快適な住まいの工夫 ・生活の課題と実践の成果とを比較し、実践の課題を抽出する(演、演、演)</p>	<p>将来の夢を英語で発表する。 ・英語で発表する際の発音や文法を指導し、発表の場を設ける。</p>	<p>道徳</p>	<p>職場体験 ・職場での仕事内容や業務の概要を学ぶ。 ・社会人としてのマナーや礼儀を学ぶ。 ・自己PRや志望動機を伝える。</p>
<p>【作成上の留意点】 ・本活用例は2期制の学校をイメージして作成しており、目指す生徒像に迫るために「後期」→「前期」の順に記載している。 ・育成する資質・能力については各校の現状に応じて一つ設定する。 ・年間の教材の配置は、教科や領域によって異なるので、ふさわしい教材を適宜配置する。</p>										

育成したい資質・能力

Akitaractive Check Sheet (アキタラクティブ チェックシート)

授業構想を始める際、授業設計を終えた後、実際の授業の終末等、適宜、アキタラクティブ チェックシートを用いて、教師自身も子どもの姿を共に振り返る。



学びの発信

- これまでの学びを振り返り、見通しをもっているか
- 問いを引き出すための課題設定があるか
- 気付きを手掛かりに、問いの発見があるか

学びの再思考

- 対話や議論を通じて、自分の考えを広げ深めているか
- 解決過程を振り返って考え直したり、他者の考えを生かして探し直したりするという
た試行錯誤を体験しているか
- 考えを分かり易く相手に伝えたり、仲間とよりよく解決しようとしているか
- 集団としての考えを発展させたり、より多くの人と協働したりして解決しようとしたか

学びの獲得と新たな学びの創出

- 驚きや感動、新たな問いへの意欲の高まりがあるか
- 全体の学びを振り返ることで、自らの成長を実感しているか
- 学んだことを日常生活や社会生活に生かそうとしているか

見方・考え方が成長する

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

